

1. 調査概要

現在の市や市政にどの程度満足しているか、また、今後のまちづくりにおいて重要な項目などの市民意識を把握するために実施

居住地区区分について

- ・「既存区域」：第1地区、第2地区、第3地区、第4地区、第6地区
- ・「ニュータウン区域」：第5地区、第7地区、第8地区、第9地区、第10地区

	前回調査（H23）	今回調査（R4）（下線部が前回との変更点）	
実施期間	平成 23（2011）年 3 月	令和 4（2022）年 10 月 5 日～10 月 21 日	
対 象	無作為抽出で選出された 20 歳以上の市民 3,000 人	市内 10 地域に区分し、地域別は無作為抽出で選出された 18 歳以上市民 3,000 人＋ <u>一般募集</u>	
回答方法	郵送による回答	郵送による回答及び WEB 回答（ <u>一般募集は WEB 回答のみ</u> ）	
回 答 数	997 件（有効回答率：32.6％）	1,112 件（有効回答率：37.1％） 紙回答：904 件 WEB 回答：208 件	一般募集 11 件

注）記載するグラフは小終点第 2 位を四捨五入しているため、100％にならない場合がある。

地区名	町丁目	地域別区分
第 1 地区	関戸 1～4 丁目、一ノ宮 1～4 丁目、東寺方 1 丁目	既存区域
第 2 地区	連光寺 1～6 丁目、聖ヶ丘 1～5 丁目、馬引沢 1～2 丁目	既存区域
第 3 地区	関戸 5～6 丁目、桜ヶ丘 1～4 丁目、貝取（番地）	既存区域
第 4 地区	東寺方（番地）、百草（番地）、落川（番地）、乞田（番地）	既存区域
第 5 地区	愛宕 1～4 丁目、和田 3 丁目、東寺方 3 丁目	ニュータウン区域
第 6 地区	和田（番地）、和田 1261 番地（百草団地）	既存区域
第 7 地区	諏訪 1～6 丁目、永山 1～7 丁目	ニュータウン区域
第 8 地区	貝取 1～5 丁目、豊ヶ丘 1～6 丁目、南野 1 丁目	ニュータウン区域
第 9 地区	落合 1～6 丁目、南野 2～3 丁目、鶴牧 1～6 丁目	ニュータウン区域
第 10 地区	唐木田 1～3 丁目、中沢 1～2 丁目、山王下 1～2 丁目	ニュータウン区域



注）地域別区分については地域別の傾向を把握するため大まかな区分となっている。
そのため、ニュータウン区域と既存区域が混在している地区がある。

2. 調査結果

(1) 回答者の属性について

①年齢層

- ・70 代以上が約 4 割で最も多く、次いで 50 代、60 代の順に多い。30 代以下は約 1 割。

②職業

- ・会社員が最も多く、次いで無職、主婦（夫）の順に多い。会社員、自営業、公務員などの勤労者が約 4 割を占めている。

③居住年数

- ・20 年以上が 6 割強で最も多い。1～4 年、5～9 年、10～14 年、15～19 年はほぼ同じ割合である。

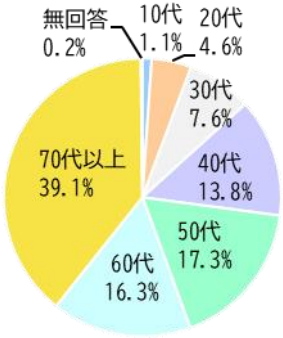
④世帯人数

- ・2 人が約 4 割で最も多く、次いで 3 人、1 人の順に多い。

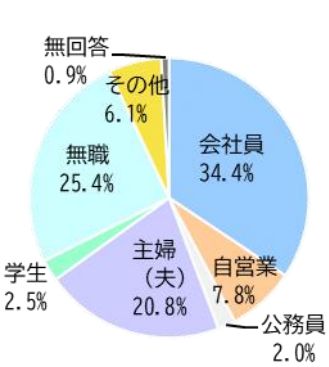
⑤居住地区

- ・回答者の居住地区に大きな偏りはない。

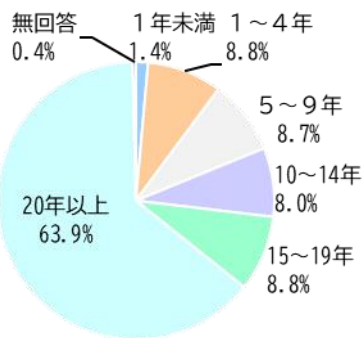
【今回調査】(R4)



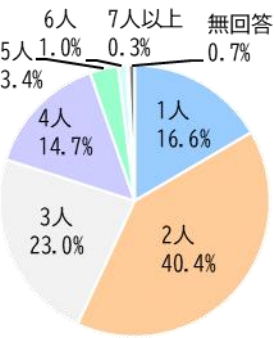
【今回調査】(R4)



【今回調査】(R4)



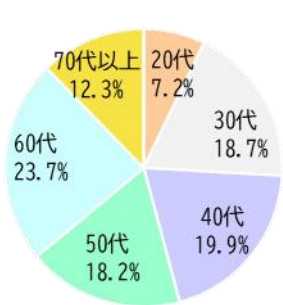
【今回調査】(R4)



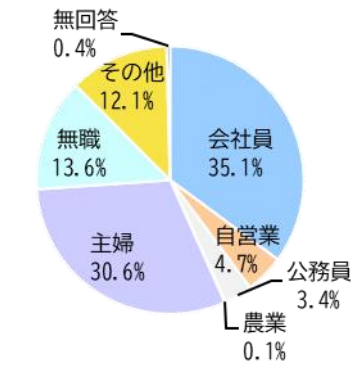
【今回調査】(R4)



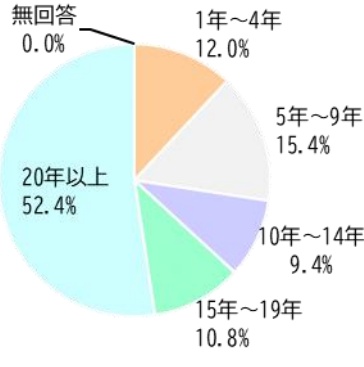
【前回調査】(H23)



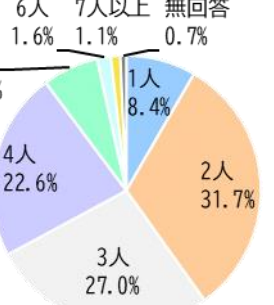
【前回調査】(H23)



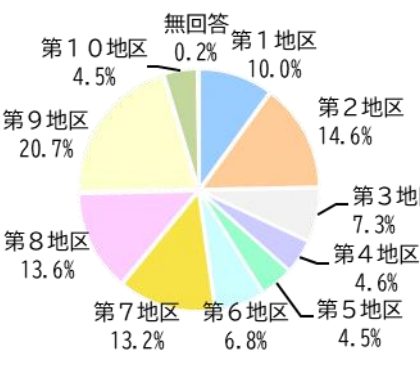
【前回調査】(H23)



【前回調査】(H23)



【前回調査】(H23)

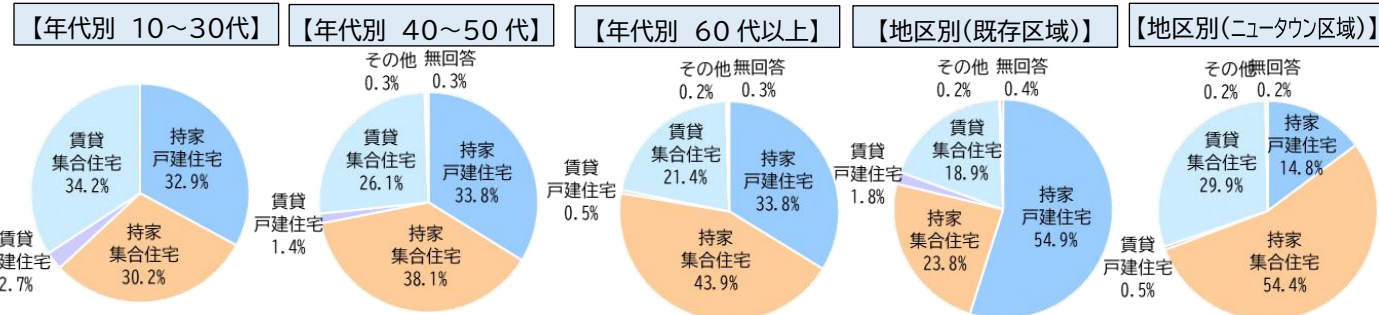
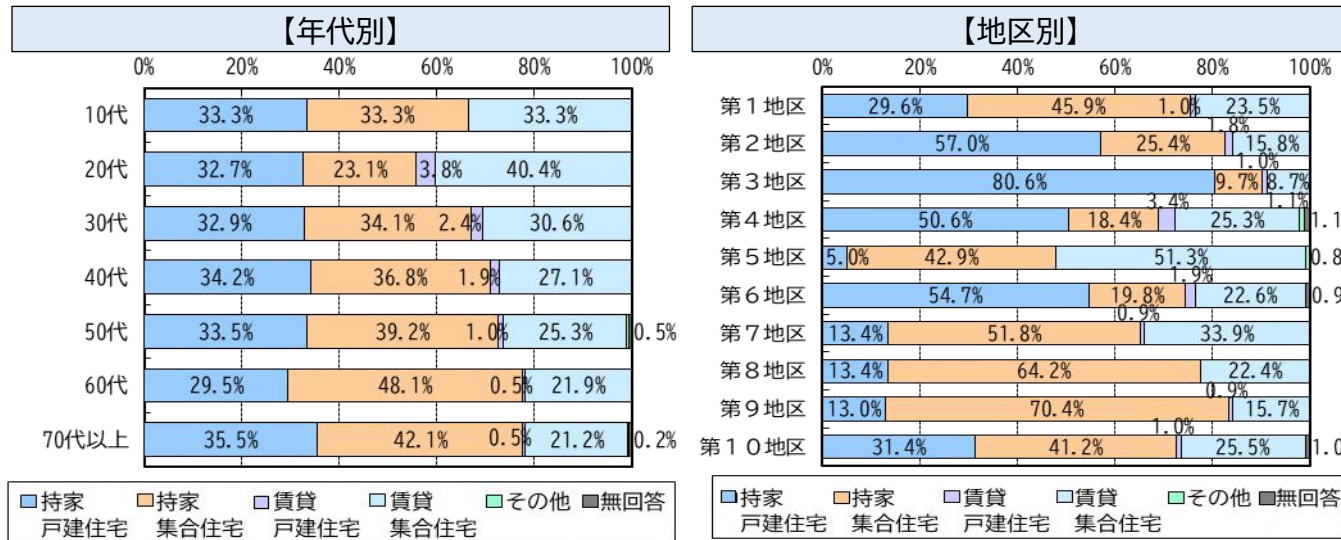
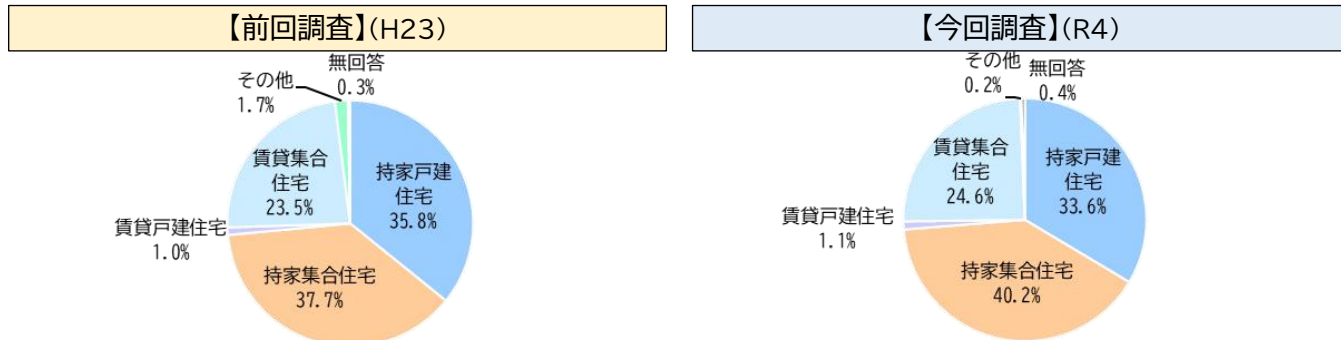


市民意向調査結果総括(2／8) ※内容精査中

(1) 回答者の属性について

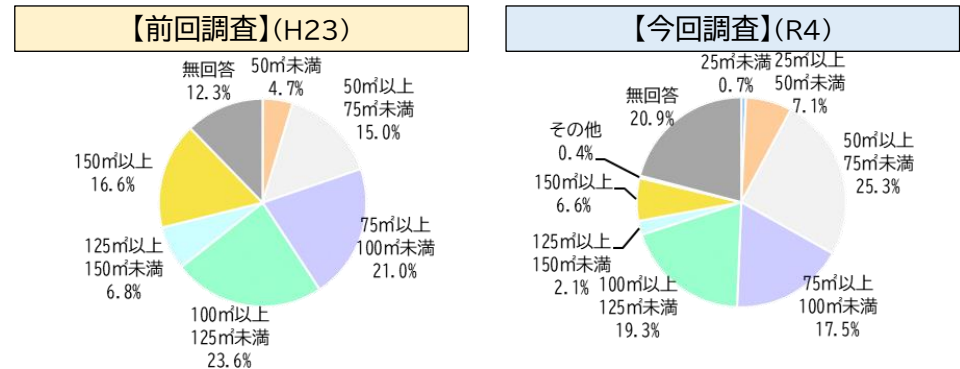
⑥居住形態

- ・持家戸建住宅と持家集合住宅を合わせた“持家”が約 74%、賃貸戸建住宅と賃貸集合住宅を合わせた“借家”が約 26%。持家でも、持家戸建よりも持家集合住宅の方が多い。
- ・年代別にみると、持家戸建住宅は年齢による差は無い。10 代を除き、年齢が上がるにつれて持家集合住宅の割合が高くなり、賃貸集合住宅の割合が低くなる。
- ・地区別にみると、第 2、第 3、第 4、第 6 地区では持家戸建住宅が最も多いが、第 1、第 7、第 8、第 9、第 10 地区では持家集合住宅が最も多い。一方、第 5 地区は賃貸集合住宅が最も多い。



⑧将来住み替える場合の希望延床面積

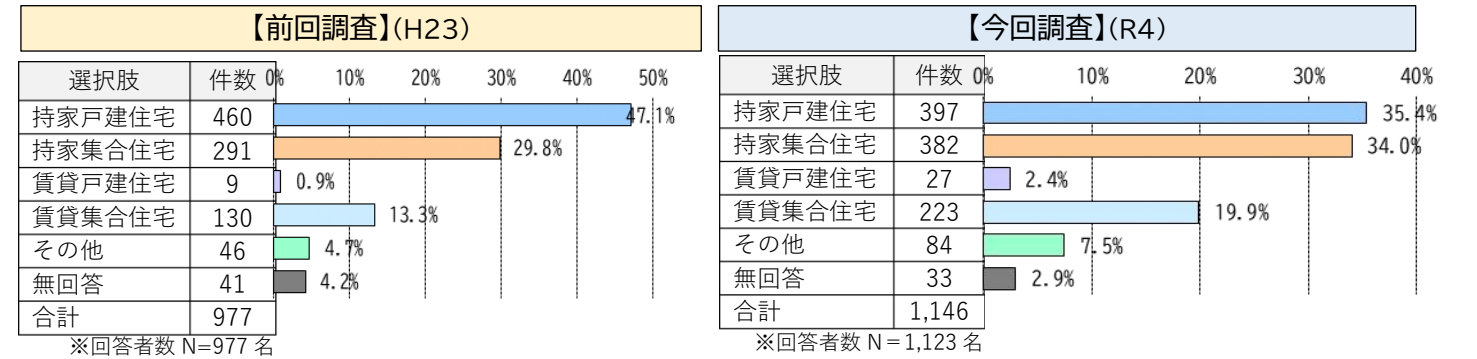
- ・「50 ㎡以上 75 ㎡未満」が最も多く、次いで「100 ㎡以上 125 ㎡未満」、「75 ㎡以上 100 ㎡未満」の順に多い。



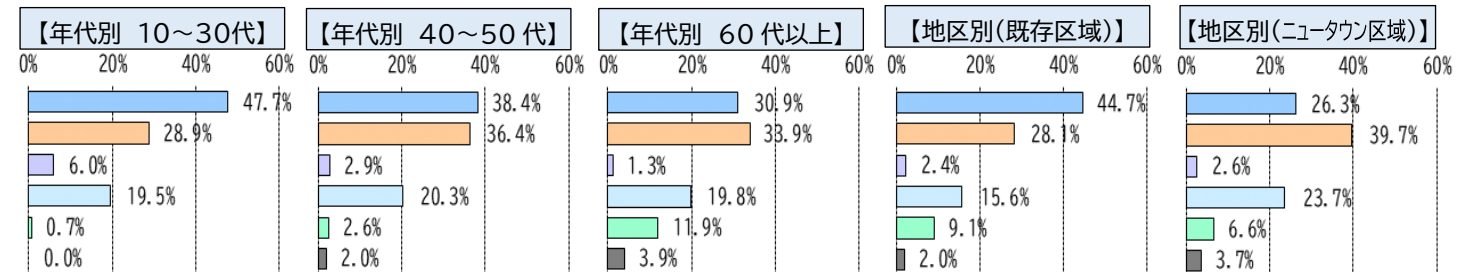
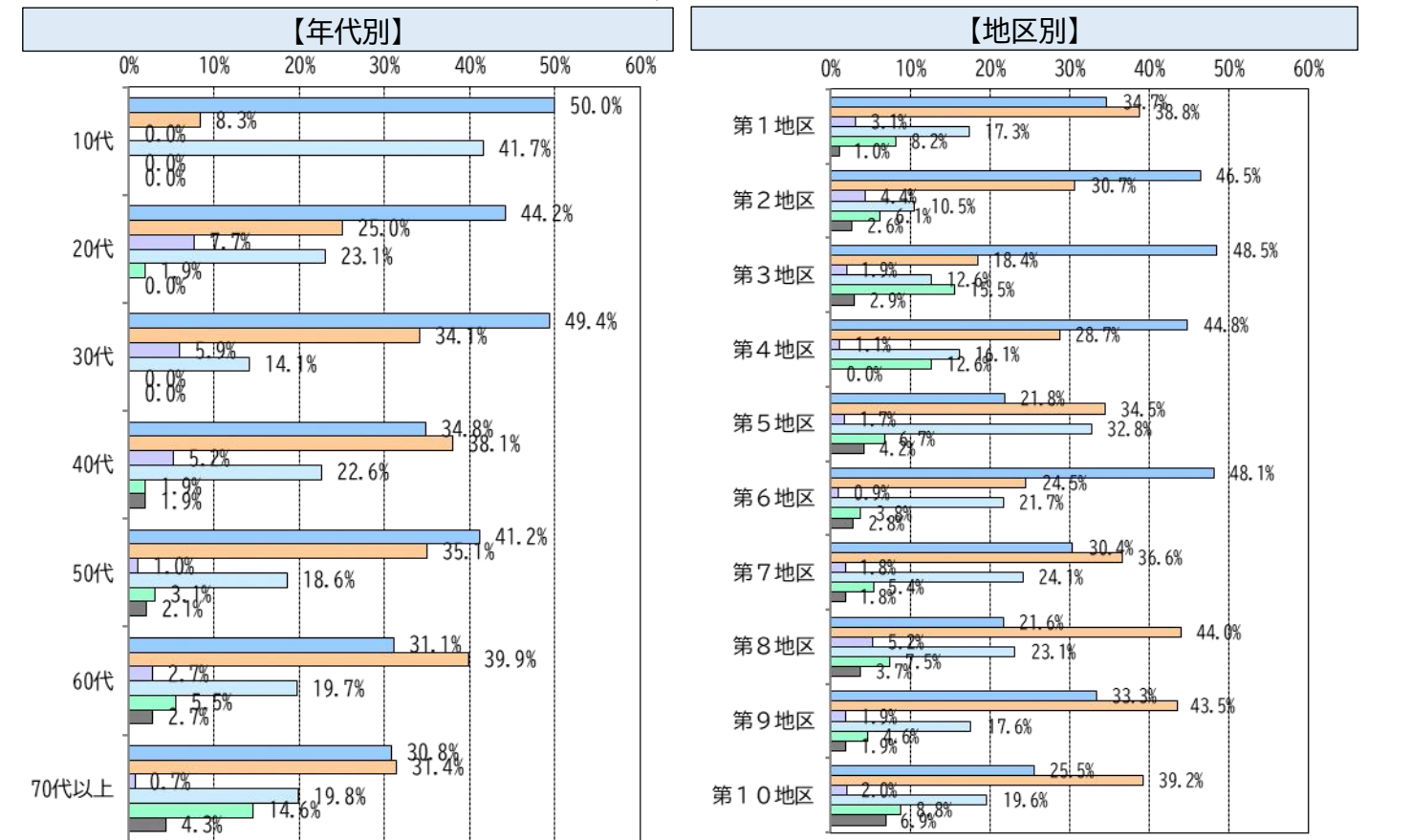
⑦将来希望する居住形態

- ・持家戸建住宅と持家集合住宅が約 34～35% でほぼ同じ割合となっている。
- ・年代別でみると、10、20、30、50 代で持家戸建住宅が多く、40、60、70 代では持家集合住宅が多い。
- ・70 代以上ではその他の回答が多くなり、内容を見ると、高齢者向け住宅や施設があげられている。

その他内容	件数
高齢者向け住宅	16
高齢者支援施設（介護施設）	15
住替え意思なし	35
その他	18
総計	84



注) 複数回答が可能のため、合計値が回答者数より多い数値となっている。



(2) 多摩市の地域環境について

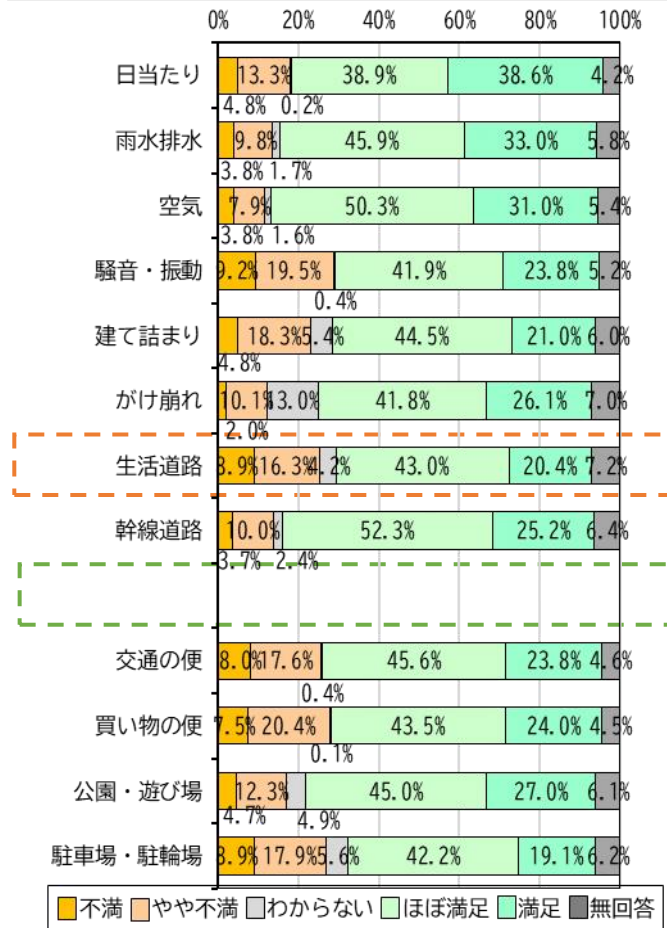
①地域環境の満足度

- ・前回、今回ともに「満足」が最も多い項目は「日当たり・風通し」で、「満足」と「ほぼ満足」の合計でみると、前は「空気のきれいさ」、今回は「日当たり・風通し」が最も多い。
- ・「不満」が最も多い項目は、前は「がけ崩れ・擁壁等の崩壊に対する整備」であったが、今回は新規項目の「バリアフリー」となっており、「不満」と「やや不満」の合計でも同様である。

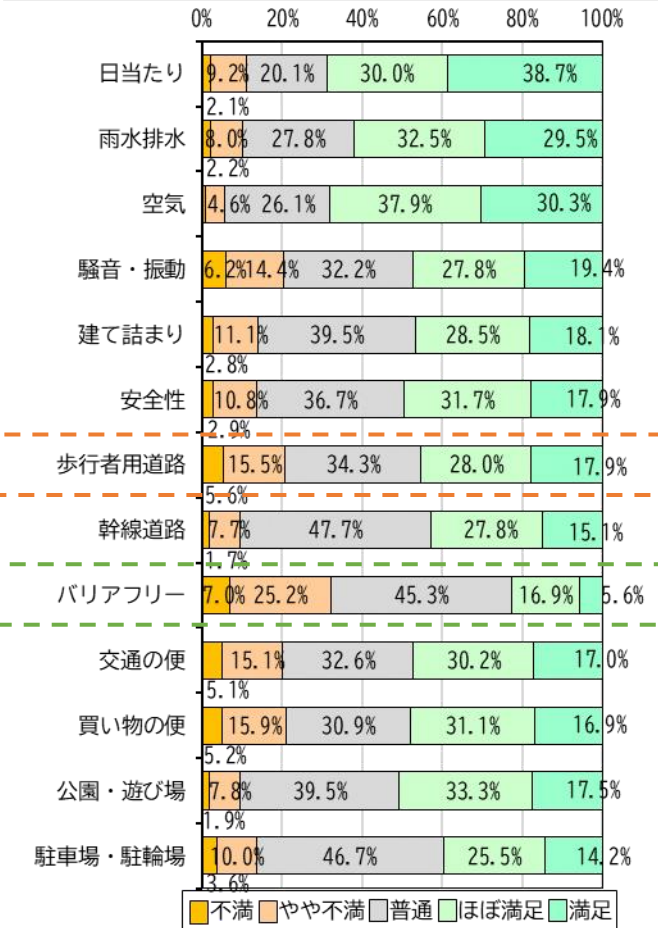
※ ○：項目あり ―：項目なし

前回	今回	選択肢	前回	今回	選択肢
○	○	日当たり・風通しについて	○	○	幹線道路について
○	○	雨水排水の状況について	―	○	バリアフリーについて
○	○	空気のきれいさについて	○	○	交通の便について
○	○	騒音・振動について	○	○	買い物の便について
○	○	建物の建て詰まり具合について	○	○	公園・遊び場について
○	―	がけ崩れ・擁壁の崩壊に対する整備について	○	○	駐車場・駐輪場の整備具合について
―	○	震災・風水害に対する安全性について			
○	―	生活道路（歩道がない道路）			内容が異なる項目
―	○	歩行者用道路			新規項目

【前回調査】(H23)

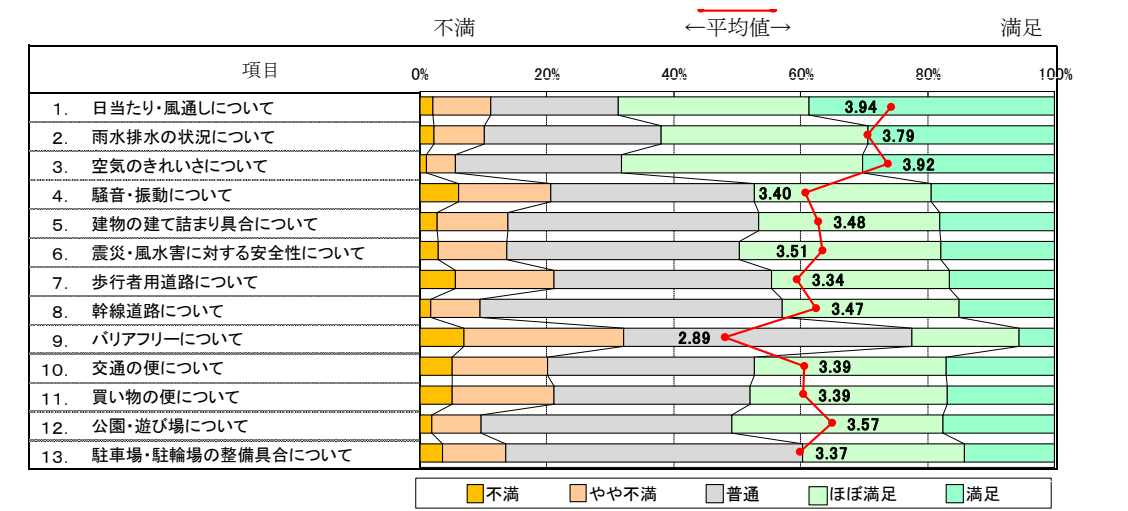


【今回調査】(R4)



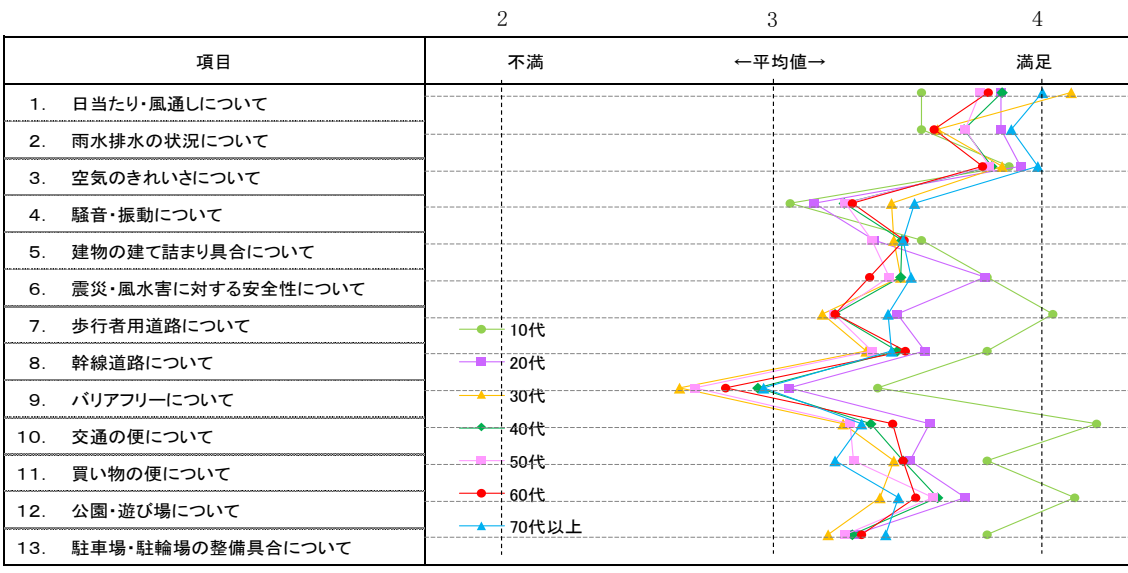
【全体】

- ・地区別にみると、第1地域では「交通の便」「買い物の便」の満足度が他地区に比べて高く、第9地域では「歩行者用道路」の満足度が他地区に比べて高くなっている。

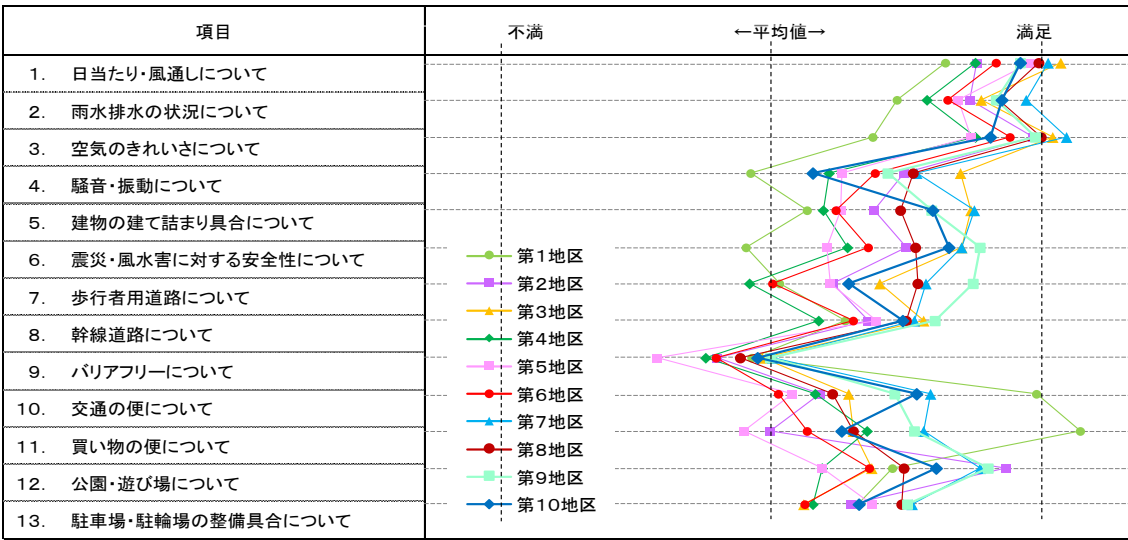


※満足度の平均値を算出。(大きいほど満足度が高く、小さいほど満足度が低い)

【年代別】



【地区別】



(3) 多摩市の将来のまちづくりについて

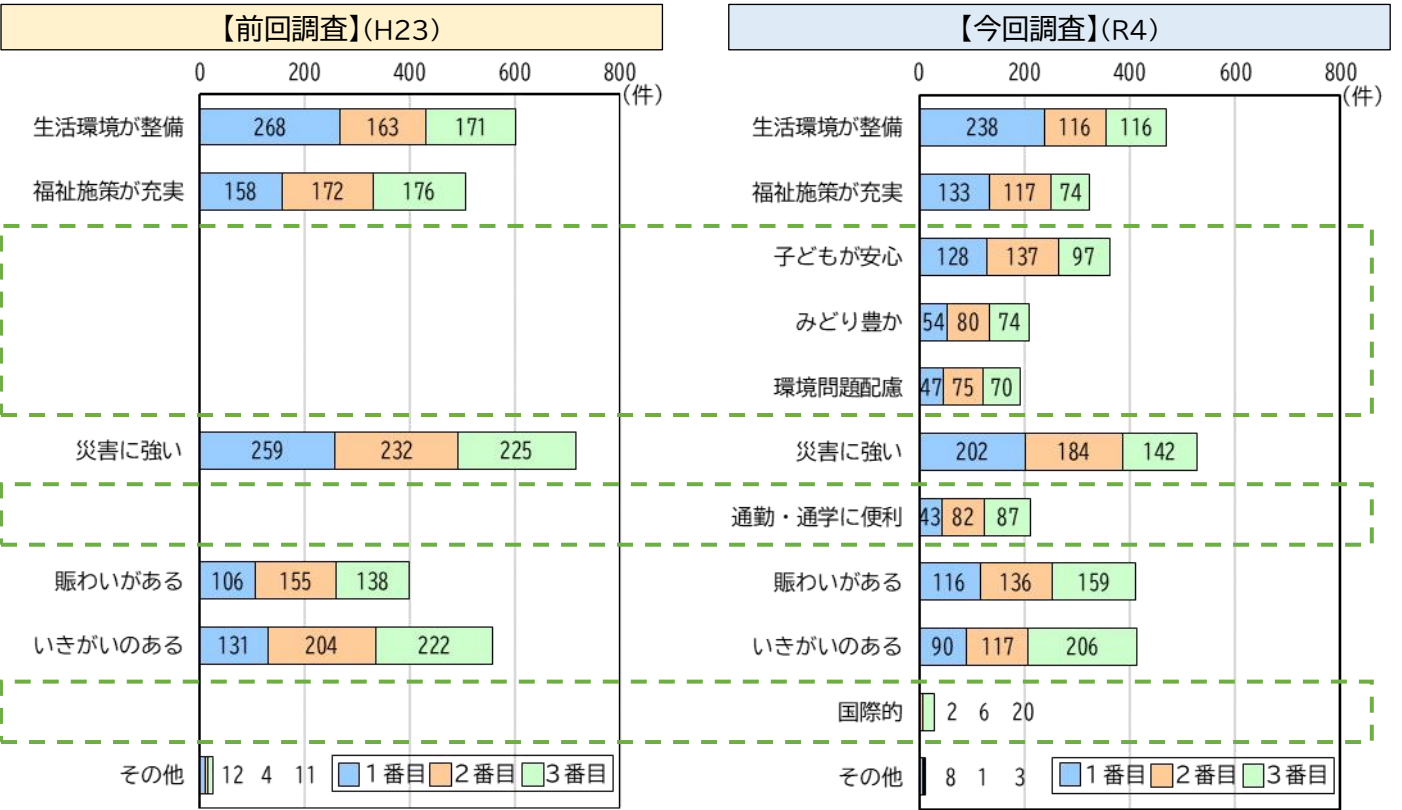
①多摩市に望む将来像

- ・ 前回、今回ともに、1 番目の回答で最も多いのは「生活環境が整備されたまち」で、1 ～ 3 番目の回答数の合計で最も多いのは「災害に強い安心して暮らせるまち」である。

・ 今回調査で新たに追加した項目では、「子どもや子育て中の保護者が安心して過ごせる環境が整備されたまち」が最も多い。

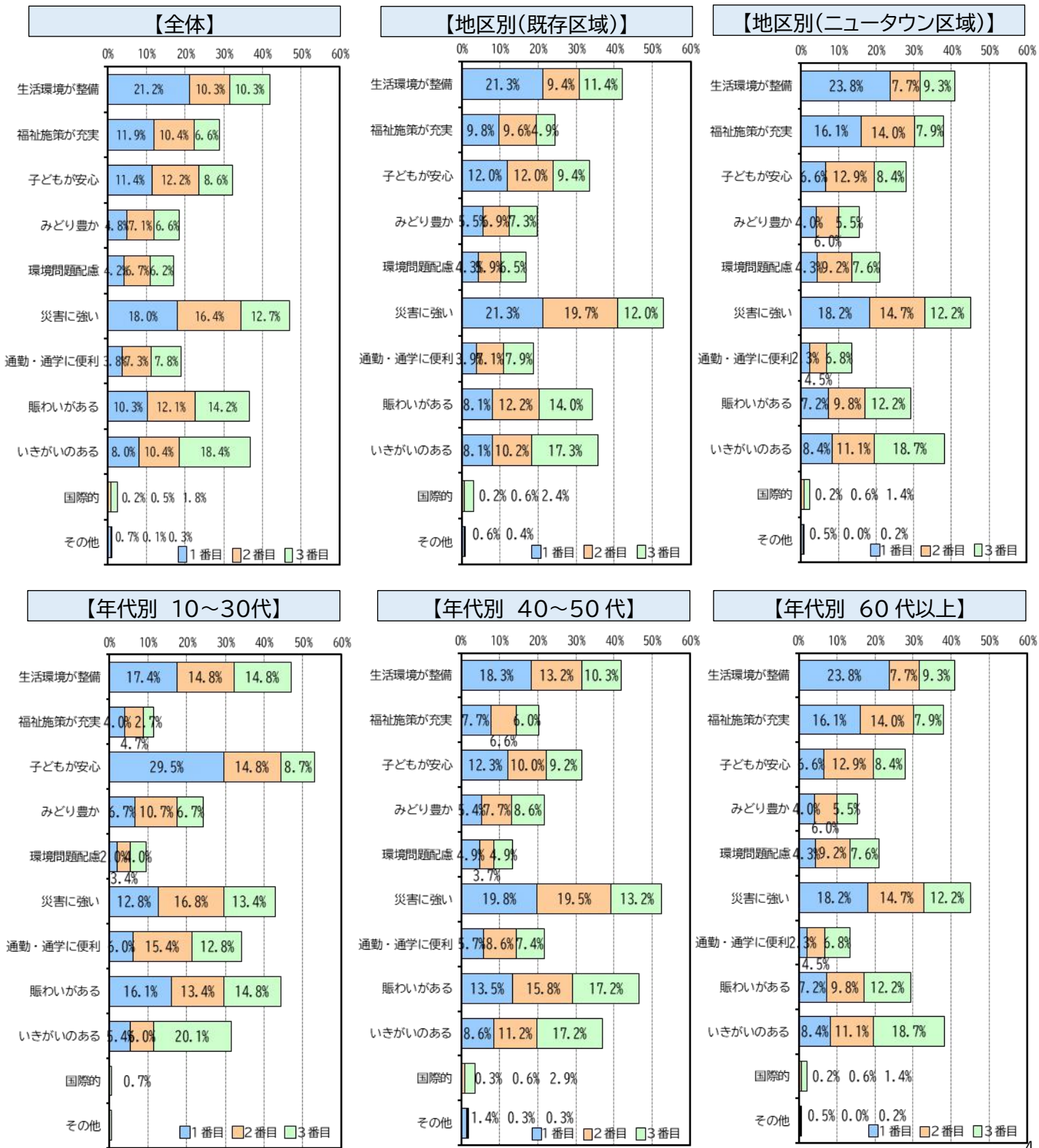
※ ○：項目あり ―：項目なし

前回	今回	選択肢	前回	今回	選択肢
○	○	良好な住宅地等の生活環境が整備されたまち	○	○	商業・業務施設が整備され、働く機会や場所が身近にあり、欲しいものや情報がすぐに手に入る、便利で賑わいがあるまち
○	○	障がい者や老人福祉施策が充実したまち			
―	○	子どもや子育て中の保護者が安心して過ごせる環境が整備されたまち	○	○	文化・スポーツ施設や教育機関、コミュニティ施設が整備され、若者からお年寄りまで自分に見合った活動のできる、いきがいのあるまち
―	○	公園や農地を活かしたみどり豊かなまち			
―	○	地球温暖化や環境問題へ配慮されているまち	―	○	外国との交流がさかんな国際的なまち
○	○	地震や水害などの災害に強い安心して暮らせるまち	○	○	その他
―	○	交通機関が整備された通勤・通学に便利なまち			
				○	新規項目



- ・ 年代別でみると、若年層（10 代～20 代）では項目 3「子どもや子育て中の保護者が安心して過ごせる環境が整備されたまち」が最も回答数が多く、中年層（30 代～50 代）や高齢層（60 代以上）では、項目 6「地震や水害などの災害に強い安心して暮らせるまち」が最も多くなっている。

・ 地区別にみると、既存市街地では項目 6 が多く、ニュータウン区域では、項目 6 の他、項目 1「良好な住宅地等の生活環境が整備されたまち」、項目 2「障がい者や老人福祉施策が充実したまち」、項目 8「商業・業務施設が整備され、働く機会や場所が身近にあり、欲しいものや情報がすぐに手に入る、便利で賑いがあるまち。」、項目 9「文化・スポーツ施設や教育機関、コミュニティ施設が整備され、若者からお年寄りまで自分に見合った活動のできる、いきがいのあるまち」が多くなっている。



(3) 多摩市の将来のまちづくりについて

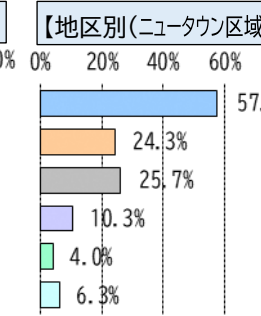
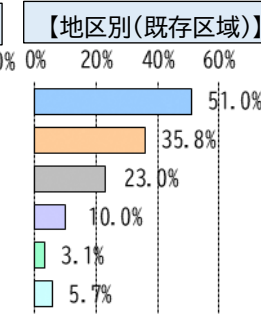
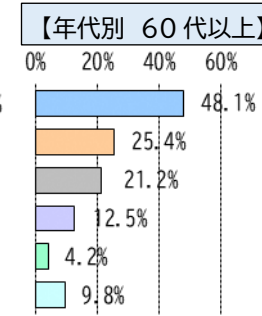
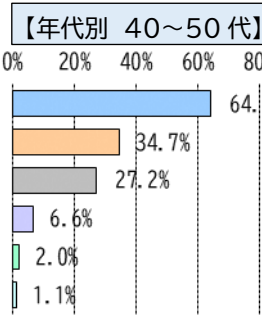
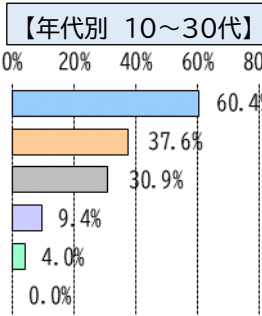
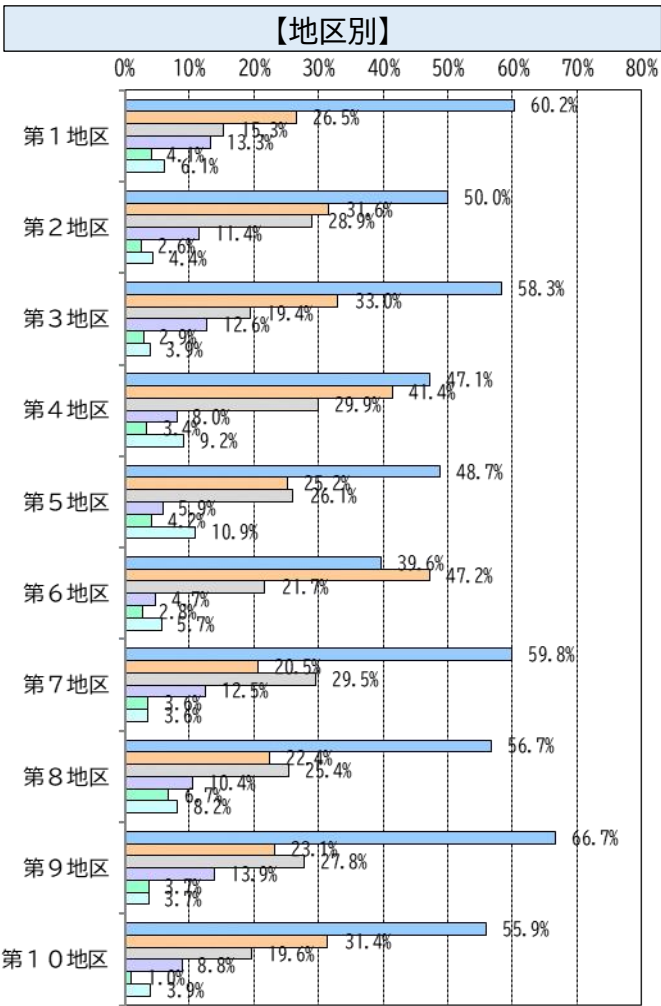
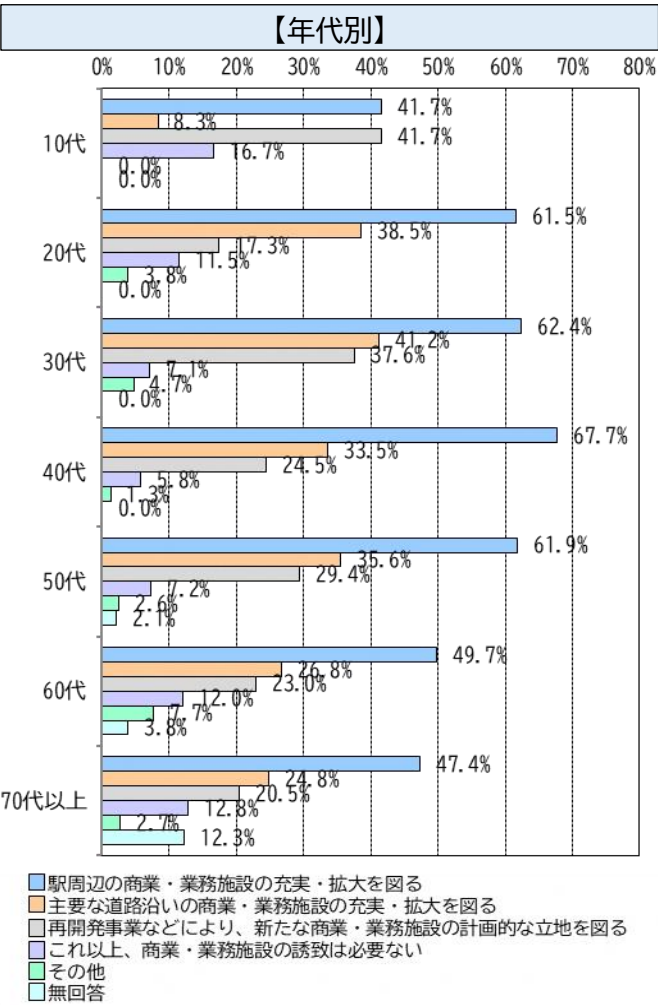
②商業・業務施設の誘致・立地

※ ○：項目あり ―：項目なし

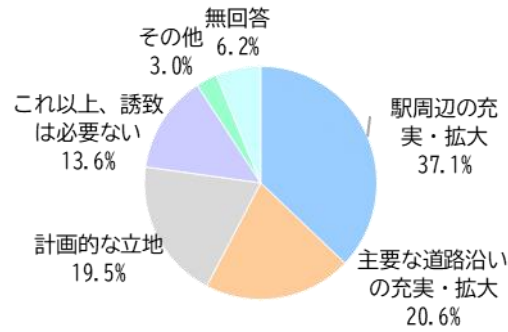
- ・「これ以上、誘致は必要ない」は、前回は13.6%でしたが、今回は8.0%と大きく減少している。
- ・一方、「駅周辺の充実・拡大」は、前回の37.1%から今回は42.6%に、「主要な道路沿いの充実・拡大」は、前回の20.6%から今回は23.2%へと大きく増加している。

前回	今回	選択肢
○	○	駅周辺の商業・業務施設の充実・拡大を図る
○	○	主要な道路沿いの商業・業務施設の充実・拡大を図る
○	―	土地区画整理事業や再開発事業などにより、新たな商業・業務施設の計画的な立地を図る
―	○	市街地再開発事業などにより、新たな商業・業務施設施設の計画的な立地を図る
○	○	これ以上、商業・業務施設の誘致は必要ない
○	○	その他

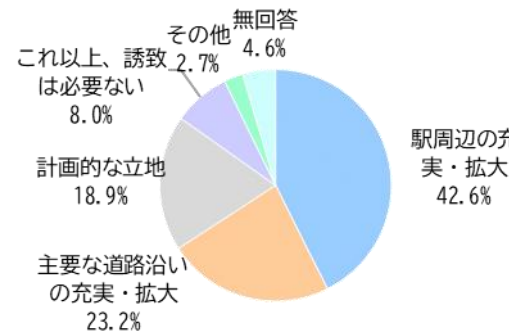
- ・地区別でみると、第6地区では「主要な道路沿い」の回答が最も多いが、他地区では「駅周辺」が最も多くなっている。第5、第7、第8、第9地区では、「主要な道路沿い」よりも「再開発事業などによる計画的な立地」の方が、回答が多くなっている。



【前回調査】(H23)



【今回調査】(R4)



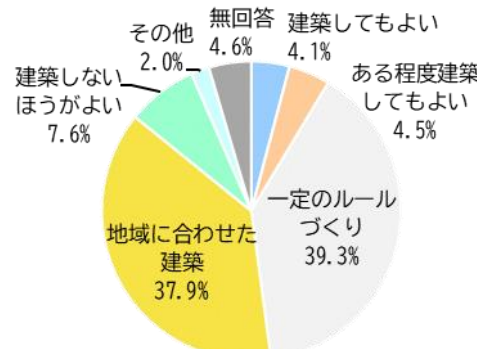
注) 前回調査との比較のため、回答総数の割合で表示

③駅周辺の新規住宅(マンション等)の建築

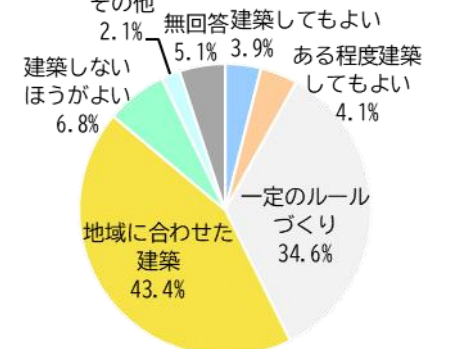
- ・「住宅を建築しない方がよい」は7.6%で、「住宅を建築してもよい」「住宅をある程度建築してもよい」の合計は8.6%となっている。
- ・「一定のルールづくりが必要」、「地域に合わせた建築が必要」がそれぞれ約4割となっており、一定の条件のもと住宅建築が望まれている。
- ・年代別でみると、年齢が若い層ほど「住宅を建築してもよい」と回答している割合が多くなっている。

選択肢
住宅を建築してもよい
住宅をある程度建築してもよい
住宅をある程度建築してもよいが、一定のルールづくりが必要
市内各駅で、まちの特性が異なるので、それぞれの地域に合わせた建築が必要
住宅を建築しないほうがよい
その他
無回答

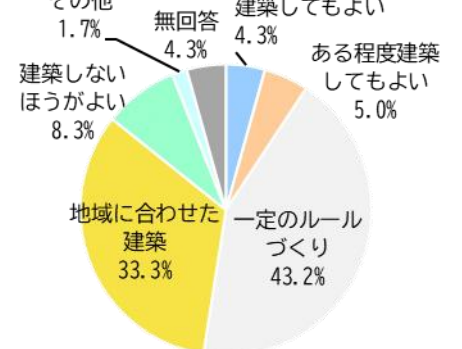
【全体】



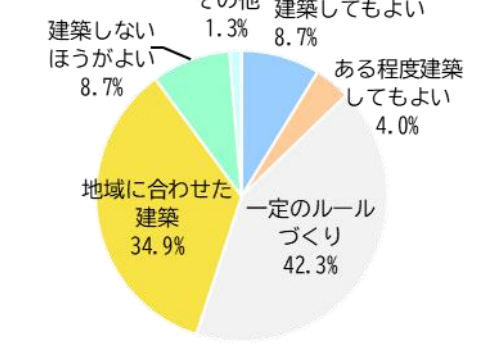
【地区別(既存区域)】



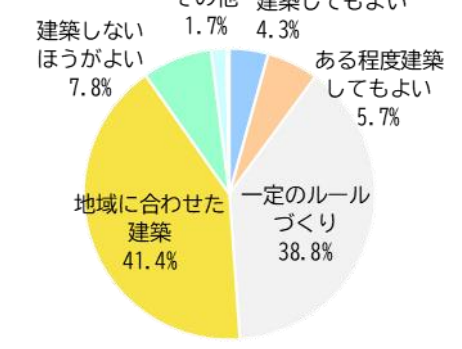
【地区別(ニュータウン区域)】



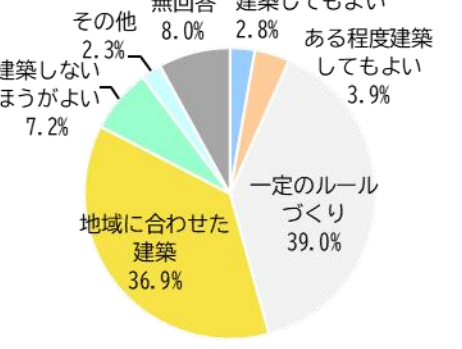
【年代別 10～30代】



【年代別 40～50代】



【年代別 60代以上】



(3) 多摩市の将来のまちづくりについて

④多摩市のまちづくりで不安に思うこと

・前回、今回ともに「人口の減少によるまちの活力の低下」が最も意見が多く、2番目が「団地・マンションの老朽化と建替えの困難さ」、3番目が「買い物・医療・福祉施設等への移動手段の確保」となっている。

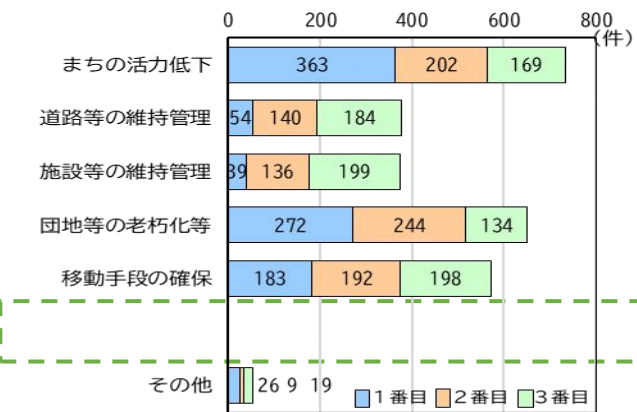
・地区別にみると、両地区とも「人口の減少によるまちの活力の低下」の回答が多いが、ニュータウン区域では、「団地・マンションの老朽化と建て替えの困難さ」の回答が最も多い。また、「災害や異常気象に対応した防災・治水対策について」は、既存区域では約48%の回答だが、ニュータウン区域では、約26%の回答と差が大きい。

・年代別にみると、どの年齢層においても「人口の減少によるまちの活力の低下」の回答が最も多くなっている。若年層では、「公園・緑地・道路などの老朽化と維持管理」についても高くなっている。

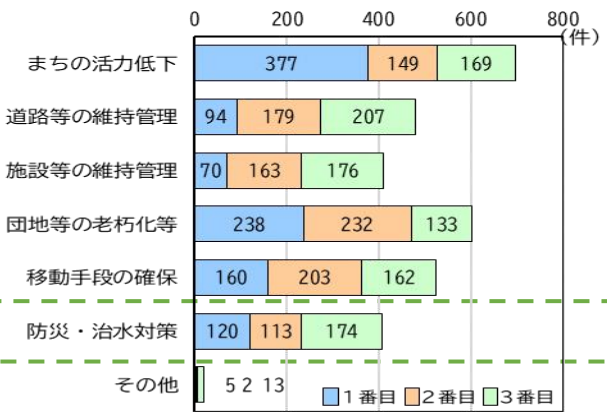
前回	今回	選択肢
○	○	人口の減少によるまちの活力の低下
○	○	公園・緑地・道路などの老朽化と維持管理
○	－	コミュニティ・文化施設などの老朽化と維持管理
－	○	公共建築物の老朽化と維持管理
○	○	団地・マンションの老朽化と建替えの困難さ
○	○	買い物・医療・福祉施設等への移動手段の確保
－	○	災害や異常気象に対応した防災・治水対策について
○	○	その他
		新規項目

※ ○：項目あり －：項目なし

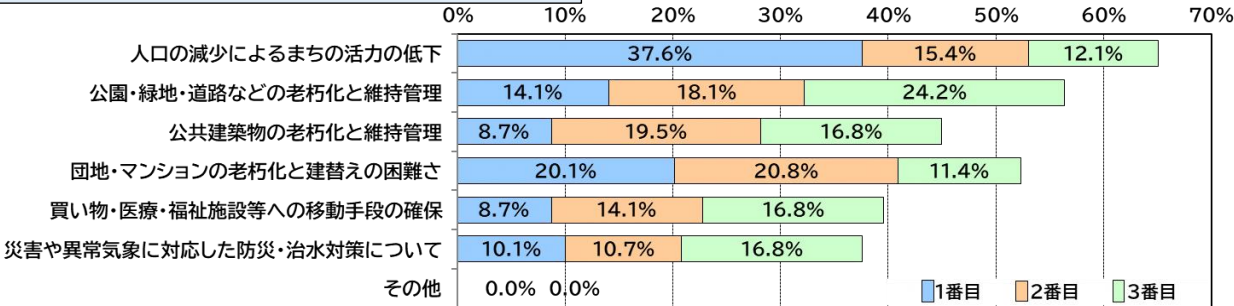
【前回調査】(H23)



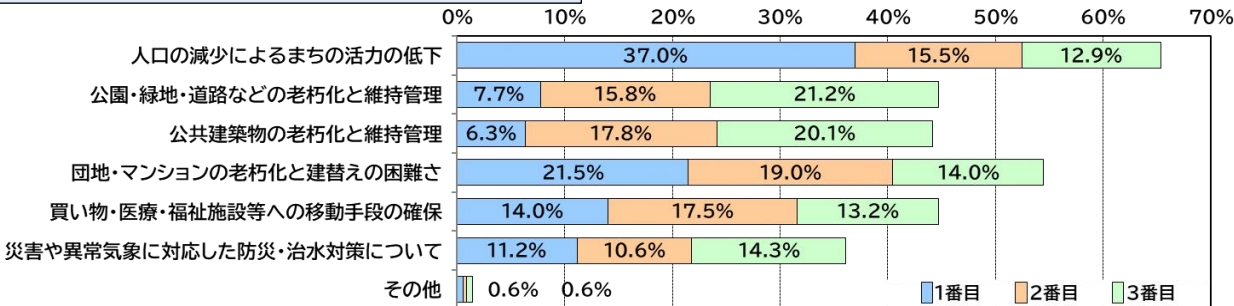
【今回調査】(R4)



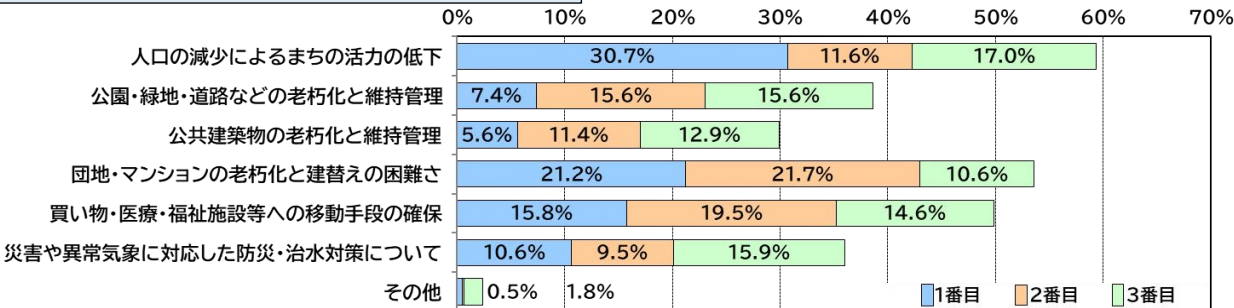
【年代別(10代～30代)】



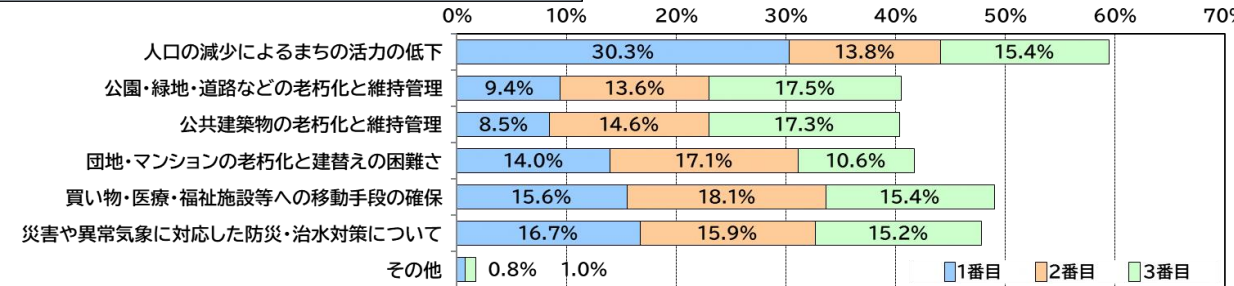
【年代別(40代～50代)】



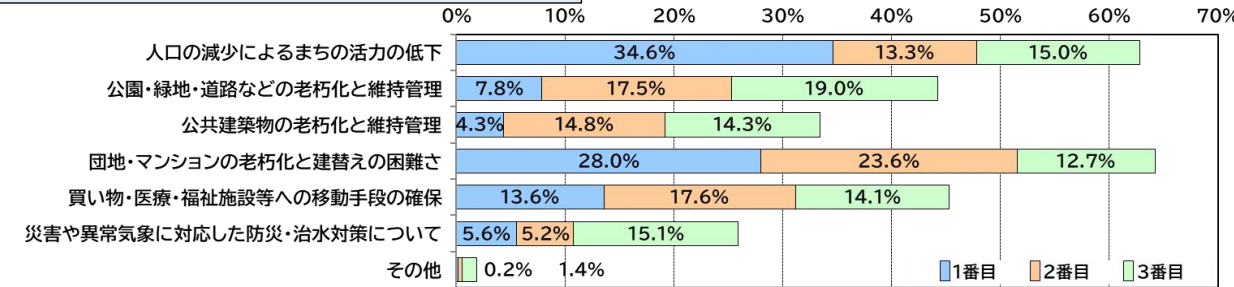
【年代別(60代以上)】



【地区別(既存区域)】



【地区別(ニュータウン区域)】



⑤多摩市の良さとして将来継承したい事項

・前回、今回ともに「豊かな緑や、水辺などの自然環境」が最も多く、2番目が「整備と管理がされた、安全で衛生的な環境」、3番目が「鉄道や広い道路など、ゆきとどいた快適な交通環境」となっている。

・年代別にみると、10代を除いて「自然環境」が最も多くなっている。2番目に多い回答は、20代は「便利で賑わいのある環境」である一方、30代以上は「安全で衛生的な環境」となっている。
・地区別にみると、全ての地区で「自然環境」が最も多くなっている。

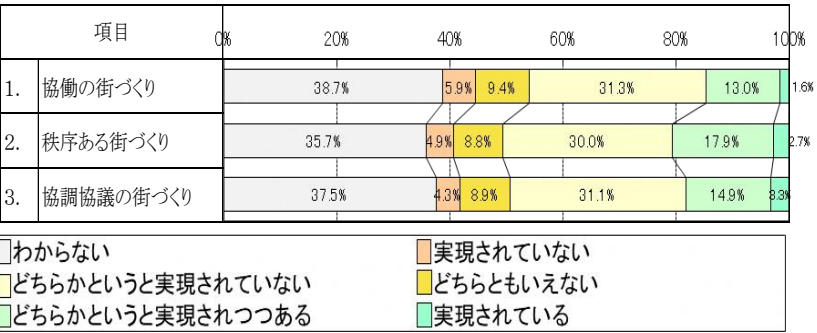
選択肢
豊かな緑や、水辺などの自然環境
整備と管理がされた、安全で衛生的な環境
日常生活用品や情報が手に入りやすい、便利で賑わいのある環境
鉄道や広い道路など、ゆきとどいた快適な交通環境
その他

(4) 市政とのかかわり方について

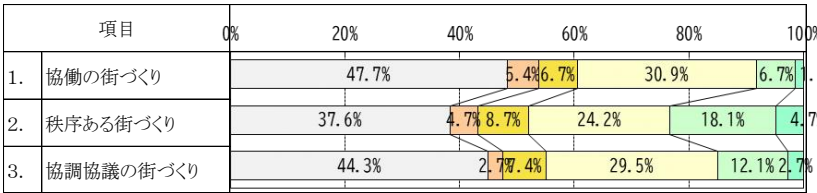
①「協働の街づくり」、「秩序ある街づくり」、「協調協議の街づくり」の取組実現度

・項目による回答の差はあまりないが、「実現されている」「どちらかというと実現されつつある」の合計は、「秩序ある街づくり」が最も多く、「実現されていない」「どちらかというと実現されていない」の合計は、「協働の街づくり」が最も多くなっている。しかしながら、いずれの項目も「わからない」が3割強を占めている。

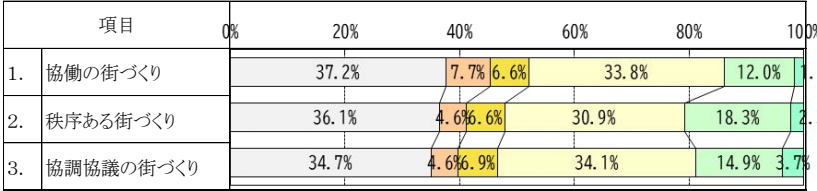
【全体】



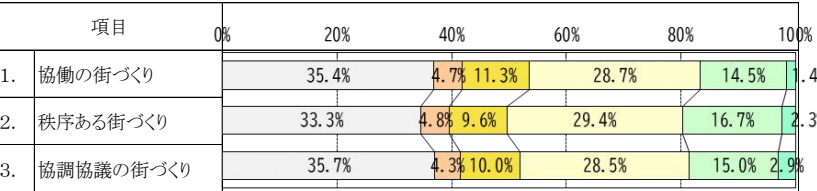
【年代別(10代～30代)】



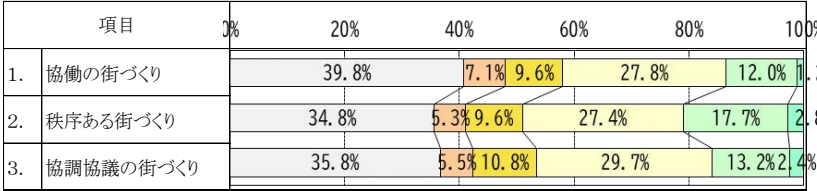
【年代別(40代～50代)】



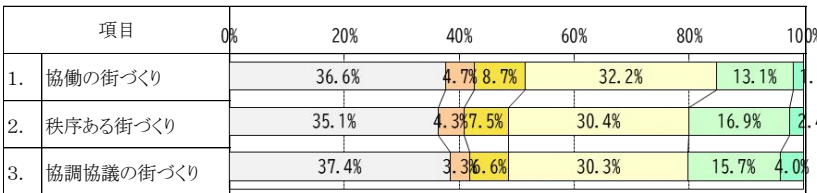
【年代別(60代以上)】



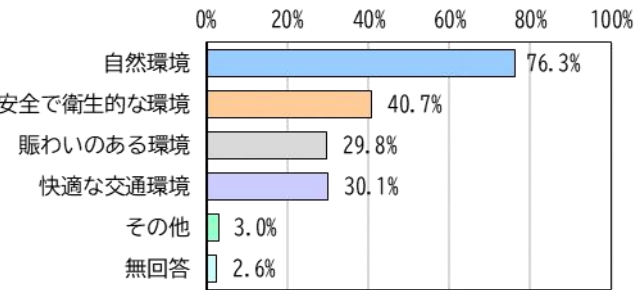
【地区別(既存区域)】



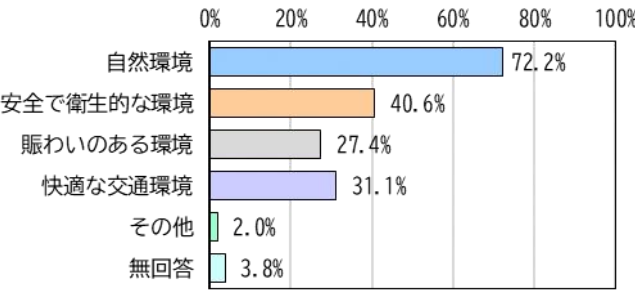
【地区別(ニュータウン区域)】



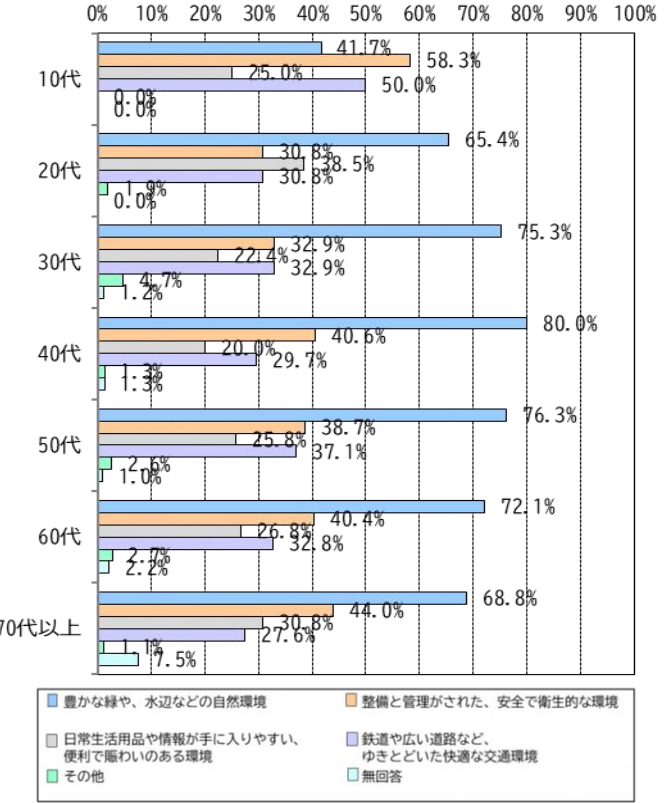
【前回調査】(H23)



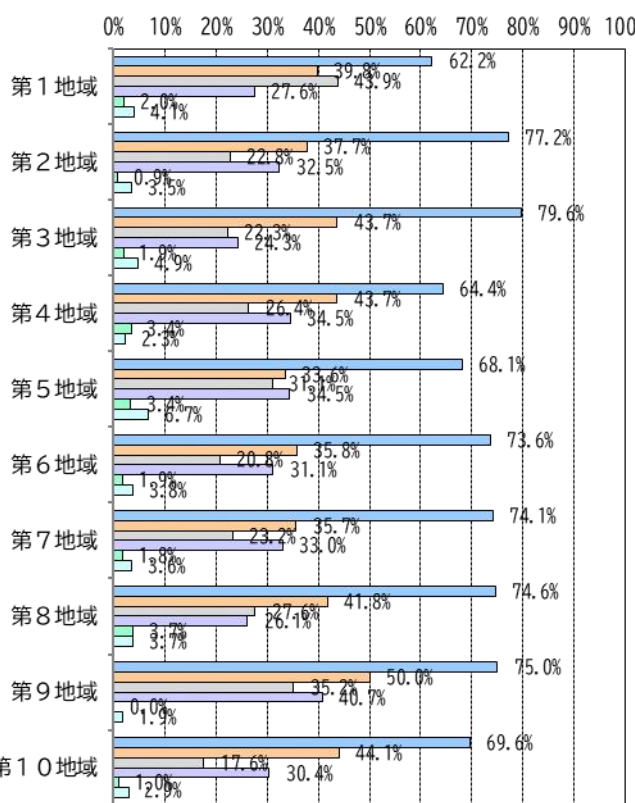
【今回調査】(R4)



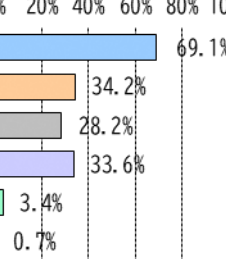
【年代別】



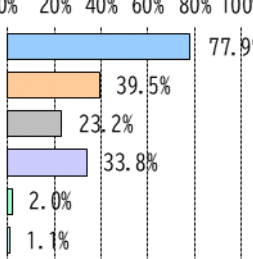
【地区別】



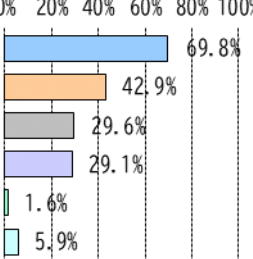
【年代別 10～30代】



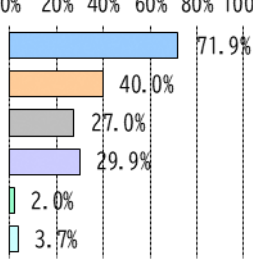
【年代別 40～50代】



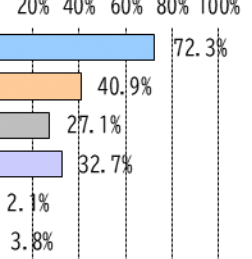
【年代別 60代以上】



【地区別(既存区域)】



【地区別(ニュータウン区域)】



②参加したいまちづくり

- ・前回、今回ともに、「現在お住まいの地域の、身近な生活環境に関する美化運動など」が最も多くなっている。
- ・「まちづくりにあまり関心がないため参加したくない」は、前は 6.6%であったが今回は 14.5%と、大きく増加している。

- ・年代別にみると、10代は「参加したくない」が最も多くなっている。「地域のコミュニティセンターや、公園づくり等の建設計画」は30代、40代での回答が多く、特に30代では最も多い回答となっている。また、「都市計画マスタープランの検討」も、20代から50代では回答が多くなっている。一方、「身近な生活環境に関する美化運動など」は年代が上がるにつれて回答割合が高くなっている。

選択肢
多摩市全域を対象とした「多摩市都市計画マスタープラン」(都市計画に関する基本的な方針)の検討
地域のコミュニティセンターや、公園づくり等の建設計画
現在(今)お住まいの地域の、まちづくりのルールである地区計画や建築協定など
現在(今)お住まいの地域の、身近な生活環境に関する美化運動など
まちづくりにあまり関心がないので参加したくない
その他

